

2.1.2
～2.1.2.1
配管材料及び継手

【追加】

- 異種金属の接合は絶縁継手を設け腐食対策を行う。
- 免震装置内に設置する配管継手はルーズフランジ加工仕様とする。
- ステンレス鋼管継手は下記の通りとする。
 - 75Su以上
 - 溶接 ○ ハウジング
 - フランジ (● ルーズ ○ つば出し ○)
 - 60Su以下
 - 溶接 ○ ハウジング
 - フランジ (○ ルーズ ○ つば出し ○)
 - メカニカル (● 拡管継手)
- 鋼管継手において、80A以下はねじ、100A以上は溶接とする。
- ライニング鋼管の呼び径100以下は、ねじ接合とする。
- 圧送継手にMD継手を用いる場合は下記の仕様とする。
- 圧送排水に鋼管を用いる場合は管脱防止機構付き(鋼球入りパッキン)排水鋼管用可とう継手とする。
- 厨房排水、厨房通気、酸・アルカリ排水にMD継手を鋼管に用いる場合は多層構造ガラスライニングされた管脱防止機構付き(鋼球入りパッキン)排水鋼管用可とう継手とする。
- 可とう・防振・伸縮の仕様(種別)について施工計画書に記載し、監理者に提出のこと。
- 架橋ポリエチレン管およびポリブテン管の接合方法は下記による。
 - メカニカル ○ 熱融着 ○ 電気融着 ○ プレハブ加工品
- 給湯管に拡管式継ぎ手を用いる場合は緩み防止機能付きとする。
- 伸縮継ぎ手はスリーブ型とする。
- 伸縮継ぎ手は低反力型とする。

第2節 配管付属品

2.2.1
配管付属品

【追加】

○ 下記の機器に接続される配管は、種別ごとに制御弁装置とは別に手動流量調整弁を設けること。

- 各熱源機 (○ 冷水 ○ 温水 ○ 冷水 ○ 冷却水 ○ 熱源水)
- 各空調機 (○ 冷水 ○ 温水 ○ 冷水水)

● 逆止弁の仕様は下記とする。

- 汚水ポンプアップ系統に設ける逆止弁はボールチャッキ弁とする。
- ウェハー式逆止弁を採用する場合には、チャタリング防止型の逆止弁を使用する。標仕に従い、揚水ポンプ、消火ポンプ、冷却水ポンプ及び冷水ポンプの逆止弁は次による。

- 全揚程が30mを超える場合は衝撃吸収式とする。
- 弁の呼び径65以上の場合は、バイパス弁内蔵形とする。
- 弁の耐圧及び漏れ試験圧力は、JISで規定する検査基準による。

● バタフライ弁の仕様は下記とする。

- 高所にあつて操作が困難な弁はチェーン付とする。
- バタフライ弁の弁体(ジスク)はステンレス鋼製とする。
- 冷水系統・冷水系統に使用するバタフライ弁は、ギアボックスの結露防止考慮すること。
- 流量調整弁としてバタフライ弁を使用する場合は、流量調節弁を使用する。
- 給水系統、給湯系統で使用するバタフライ弁のシートリング材質は食品衛生試験適合品とする。

● 空調機の排水トラップは、フロートボール式とする。(スイングトラップは使用しない)

● 空気抜き弁は図示無くても必要な場合は設置する。

○ ストレーナーの仕様は下記とする。

- Y形ストレーナー(○ 水抜きバルブ設置 ○)
- U形ストレーナー(○ 冷却水 ○)
- 複式ストレーナー(○ 油用 ○)

○ プライン濃度計を備品引渡項目に追加する。

● 冷水・冷水水・給水・井水等結露のおそれがあるバルブはロングネック仕様とするか、結露防止機能付バルブとする。

○ 蒸気用バルブは急激な開閉操作ができない「ギア付」のものを使用する。

● ゴムシートの材質は冷水・冷水水・給水・消火用はEPDM、給湯用はフッ素ゴム、油用・プライン用はNBRとする。なお、直結給水系統など残留塩素濃度が高い系統は耐塩素性を強化すること。

● 減圧弁の仕様は下記とする。

また、同一給水縦管に2台以上の減圧弁を設置する場合は、上流側直近に水撃防止機を設置する。

- 100Aを超える給水縦管に減圧弁を取り付ける場合には2台同時並列使用方式とし、2台の減圧弁の定格流量は下記とする。
 - 定格流量 100%×2台
 - 定格流量 50%×2台

ストレーナー(U型)×2、圧力計×4、減圧弁×2

○ 蒸気用減圧弁は最大流速30m/s以下で選定する。

また減圧弁以降は配管口径を1サイズアップ以上とする。

● ビル用マルチエアコンの冷暖房切替ユニットは、廊下天井内に設置する。

○ フォット弁は全て陸上型とする。(消火とも)

第3節 計器その他

2.3.1
圧力計、連成計及び水高計

【追加】

- 設置位置は、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)による。
- 図示による。

2.3.2
温度計

【追加】

- 温度計は円形指示計(バイメタル式100φ)とする。
- 設置位置は公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)による他下記による。
 - 温水ヘッダー(○ 各送リ管 ○ 各選リ管 ○ 混合ポイント)
 - 空気調和機 (○ AHU ○ PAC)のサブライチャンパー、レタンチャンパー、外気取入れダクト及びチャンパー(天井吊などの小型のものは除く)。

2.3.4
油面計

【追加】

- 制御盤は下記の仕様とする。
 - 給油ポンプ制御 ○ 返油ポンプ制御 ○ 電磁弁制御
 - 油量計 ○ 満油警報付 ○ 減油警報付
 - 遠隔警報付 ○ 図示による
- フロートスイッチ部と制御盤間の配管、配線は製造者標準仕様とする。

2.3.8
瞬間流量計

【追加】

- 設置位置は、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)による他下記による。
 - 冷水ヘッダー ○ 各送リ管 ○ 各返リ管
 - 固定式は止水コック付とする。
 - 下記の瞬間流量計は着脱式を用いても良い。
 - 冷凍機、チリングユニットの冷水管、冷却水管
 - 吸収式冷水水機の冷水水管、冷却水管
 - 温水ヒーターの温水管
 - 空気調和機の冷水水管

第4節 配管施工の一般事項

2.4.1
一般事項

【追加】

(1)建物導入部の変位吸収方法

- 標準図(建物導入部の変位吸収配管要領(一)および(二))による。
- 図示による。

(2)エキスパンションジョイント

- 標準図(エキスパンションジョイント部配管要領)による。
- 図示による。
- 変位量(mm)

第5節 管の接合

2.5.12
ポリエチレン管

【追加】

(8)建物導入部において異種管を接合する場合、点検用柵を設ける。

- TC-1
- TC-2

2.5.17
溶接接合

【追加】

(1)溶接部の検査

- 溶接部の非破壊検査適用は「標仕」による。
- 溶接部の非破壊検査適用は下記による。
 - 目視のみ
 - 放射線透過検査 採取率 %
 - 浸透探傷検査 採取率 %

第6節 勾配、吊り支持

2.6.1
一般事項

【追加】

(1)配管の防振支持

- 配管の防振支持材は原則としてゴム製とする。
- スプリング製とする場合は、図示による箇所に用いる。

(2)空調配管の防振支持:防振支持範囲(冷却水管、冷水水管、蒸気管)

- 全体 ○ 機械室内 ○ シャフト内 ○ 屋上
- 天井内主配管経路 ○ NC35以下の居室天井内 ○ 図示による

(3)衛生配管の防振支持 : 防振支持範囲(給水管、給湯管)

- 全体 ● 機械室内 ● シャフト内 ○ 屋上 ○ ポンプアップ排水
- 天井内主配管経路 ○ NC35以下の居室天井内 ○ 図示による

(4)二重ビツト内の吊材

- 鋼管を吊る場合は、配管の支持部分に防食テープ巻きを行うこと。

(5)配管端部支持

- 配管の端部に振れ止め支持を取ること。

(6)屋上、屋外、免震層の支持材

- SUSまたは溶融亜鉛めっき仕上げの鋼材とする。

(7)アンカーボルト類

- 屋内外ともSUS304製とし、ダブルナットかつ3山残しとする。

(8)支持材の材質

- 高温水、蒸気配管の吊金物にPVCは使用不可とする。

第7節 埋設配管

2.7.1
地中埋設配管

【追加】

(1)地中埋設機

- 要(配管の分岐部、曲がり部)
- 埋設表示テープ
- 要(排水管を除く)

(2)埋設配管

- 土中埋設する鋼管類(給排水管)が地中壁を貫通する場合には、スリーブ管と管の隙間に電氣的絶縁性のあるシーリング材によるシーリングを行うこと。
- 埋設配管は、外面を樹脂ライニングするものをのぞいてペトロラム系防食テープハーフラップ2回巻きとすること。建物の引き込み部には、フレキの点検柵を設置すること。

(3)腐食調査

- 土中埋設の腐食調査(地表面電位勾配、土壤抵抗測定、土壤pH測定など)及び湧水水質測定を行い監理者に報告書を提出すること。

第8節 貫通部の処理

2.8.1
一般事項

【追加】

(1)配管材、設備部材の防火区画貫通処理

- 受注者は、下記に基づいた施工計画書を作成し監理者に提出すること。
 - 国土交通省大臣認定工法
 - (財)日本建築センター防炎性能評定委員会認定済工法
 - 建築設備設計・施工上の指導指針(国土交通省住宅局建築指導課監修)
 - 東京都建築設備行政に関する設計・施工上の指導指針(東京都の場合)
 - 避難安全検証法による貫通部分処理の免除規定
 - 東京都安全条例8条区画を貫通し吹出口が区画を共有する場合はSFDとする。

(2)防振貫通処理

- ポンプ吐水管が天井、床・壁を貫通する場合は、防振貫通処理および防振支持を行う。

第3章 保温、塗装及び防錆工事

第1節 保温工事

3.1.1
一般事項

- 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)を適用する。
- ()を適用する。

3.1.4
空気調和設備工事の保温

【読替】

保温材		材 質	
設置場所	材 質		
冷水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム		
温水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム		
冷水水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム		
空調排水管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム		
蒸気管	○ グラスウール ○ ロックウール		
ブライン配管 ()	○ ポリスチレンフォーム ○ 発泡ポリエステル		
一般ダクト	● グラスウール(○ 40K以上 ○ 32K ● 24K) ○ ロックウール ○ 冷水仕様		
外気ダクト	● グラスウール(○ 40K以上 ○ 32K ● 24K) ○ ロックウール ○ 冷水仕様 ○ 独立気泡断熱材		
排煙ダクト	第3編 第14節.6.(7)による		

冷却水・熱源水保温			
用途	該当機器番号	保温仕様	保温範囲
ターボ冷凍機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外
吸収式冷凍機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外
冷水水発生機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外
水冷チラー		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外
CGS		○ 蒸気 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外
水熱源(熱源水)		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外
井水利用		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外
地中熱利用HP		○ ○ ○ ○ ○	

配管外装材

用途	材 質
屋内露出	○ 合成樹脂製カバー ● カラー鉄板(部位は図示による)
機械室・倉庫	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+合成樹脂被覆亀甲金網
隠ぺい部	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網
床下暗渠	● 着色アルミガラスクロス
屋外露出	● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融メッキ鋼板
製缶類	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板
煙道	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板

- 空気調和設備工事に加温給水管を含む場合の保温は、給水配管に準じる。
- 厨房排気ダクト等(火気使用ダクト)は、ロックウール巻きとする。

ダクト外装材

用途	材 質
屋内露出	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ● ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板
機械室・倉庫	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+合成樹脂被覆亀甲金網
隠ぺい部	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網
床下暗渠	○ ステンレス ○ ガルバリウム鋼板 ● アルミガラスクロス
屋外露出	● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融メッキ鋼板

冷媒管外装材

用途	材 質
屋内露出	● 合成樹脂製カバー ○ ビニルテープ(部位は図示による)
屋外露出	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板 ● 保温化粧ケース(材質 ステンレス) ○ 高耐食性溶融メッキ鋼板

● 空調排水トラップには保温を行う。保温仕様は空調排水管保温と同様とする。

3.1.5
給排水衛生設備工事の保温

【読替】

● 下記の表を適用する。

保温材		材 質	
設置場所	材 質		
給水管	● グラスウール ○ ロックウール ● ポリスチレンフォーム(屋外)		
給湯管	● グラスウール ○ ロックウール ○		
排水管・通気管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム		
高温排水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○		

配管保温外装材

用途	材 質
屋内露出	○ 合成樹脂製カバー ● カラー鉄板(部位は図示による)
機械室・倉庫	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網
隠ぺい部	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網
屋内暗渠	● 着色アルミガラスクロス
屋外露出	● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融メッキ鋼板
製缶類	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板
煙道	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバリウム鋼板 ○ アルミニウム板

● 消火配管の屋外露出部分

- 有(ポリスチレンフォーム) ○ 無

保温仕様は給水管保温と同様とする。

● 屋内露出の耐火二層管はカラー鋼板にてラッキングを行う。

その他

【追加】

(1)免震層の保温・外装仕様

- 下記の仕様とする。
 - 屋内隠ぺい仕様
 - 床下暗渠
 - 屋外仕様(雨がかり部ほか図示による)

(2)機器の保温

○ 下記の表とする。

用途	該当機器番号	保温材質	外装材
ポンプ類(屋内)			
ポンプ類(屋外)			
送風機			
プレート熱交換器			
膨張タンク			
その他()			

訂正	・	<p>株式会社 久米設計</p>	日付	2022.3.30	一級建築士 登録番号 269097号 伊藤 彰彦	作 者 ひたちなか・東海広域事務組合消防本部・笹野消防庁舎建設 機械設備工事	図面番号	0190694	
	・		PA	丸目 明寛 増田 哲男	設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 島間 正行		図 名 機械設備工事特記仕様書 4	縮尺	A1判 A3判
	・		原 案	藤木 真二郎、小嶋 貴博				N.S N.S	図面番号 MP-04
	・								

3.1.4

【読替】

(3)空調設備
○ 管等の保温範囲留意事項は下記と対象は保温すること。

種別	範囲	配管	フランジ	弁類
温水	屋内温水配管	○	○	○
	屋外露出・駐車場	○	○	○
	屋外露出の放熱器廻り温水配管	○	○	○
	屋内および暗渠内の各種装置廻り配管	○	○	○
	屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	○	○	○
蒸気	蒸気(往)	○	○	○
	蒸気(還) やけどの恐れのある機械室露出、PS内の床上2mの範囲	○	○	○
	蒸気(還) ○ 屋内露出 ○ 駐車場内	○	○	○
	屋内露出の放熱器廻り蒸気配管	○	○	○
	屋内および暗渠内の各種装置廻り配管	○	○	○
共通	ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等	○	○	○
	各種タンク類のオーバーフロー管およびドレン管(冷温水タンクの第一バルブまで除く)	○	○	○
	エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管	○	○	○
	屋外露出油配管	○	○	○

上記表におけるポンプは下記による。
○ 冷水ポンプ ○ 冷温水ポンプ
○ 冷却水ポンプ ○ 熱湯水ポンプ ○

タンク種別は下記による。
○ 膨張タンク ○ クッションタンク ○

○ 弁類の保温仕様は配管と同等とし着脱可能なものとする。
○ 蒸気配管には断熱ジャケットを使用する。

3.1.5

【読替】

(4)給排水衛生設備
● 管等の保温範囲留意事項

種別	範囲	配管	フランジ	弁類
給水	ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等	●	●	●
給湯	屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	●	●	●
排水	暗渠内配管	○	○	○
	通気管全て	○	○	○
消火	通気管で屋外開口部から2mの範囲	●	●	●
	屋内露出消火管	○	○	○
共通	駐車場消火管	○	○	○
	屋外露出消火管	●	●	●
	エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管	●	●	●

弁類の保温仕様は下記とする。
● 配管と同等とし着脱可能なもの とすること。

(5)配管保温端部処理
● 配管保温端部のシールを行い、結露水の進入を防ぐこと。

(6)管等の凍結防止
● 凍結の恐れのある給水管・給湯管・排水管・消火管・冷却水管・ドレン管・冷温水管については下記の対応を行う。
○ 電気温床線巻
● 防凍保温(仕様 ポリスチレンフォーム)
○ 不凍液 (○ 不凍液 ○ 空調機コイル廻り)

(7)カセット型ファンコイルの配管接続部の保温
○ 保温材は内部結露なきよう、隙間なく施工を行う。
○ 保温材は吸湿性の材料を使用しない。
○ 水切り板はファンコイル本体から距離を取り、ドレンパンの範囲内に設置する。
○ 上記の施工方法を施工要領書に記載し、監理者に提出する。
○ 自主検査にて結露による漏水がないことを確認する。冬期等竣工時に結露の確認ができない場合には、竣工後の冷房開始前に確認検査を行う。

その他

【追加】

(8)ダクト等の保温
● ダクト及び附属品の保温範囲は標仕の他以下の通りとする。

範囲	外気取入ダクト	給気ダクト	還気ダクト	排気ダクト
外壁開口部から機器までの範囲のダクト	●	●	○	○
外壁開口部から2mの範囲のダクト	○	○	○	●
空調室を通過する範囲のダクト	●	●	○	○
非空調室を通過する範囲のダクト	●	●	●	○
多湿箇所を通過する範囲のダクト	●	●	○	○
全熱交換器に接続するダクト	●	●	○	○
駐車場露出ダクト	●	●	○	○
機械室(電気室を除く)露出ダクト	●	●	○	○
NC30以下の天井内を通過するダクト	○	○	○	○
屋外ダクト	●	●	○	○
電気室等常時換気を行わない室のダクト	●	●	○	○

○ FF式瞬間湯沸器の給気管は結露防止のためグラスウール25mm巻きとする。
● 厨房排気ダクト・湯沸室の排気ダクトの保温はロックウールの保温材(保温の厚さ50mm)とする。
● 多湿箇所の保温範囲は次の通りとする。
○ 浴室 ● 厨房 ● シャワールーム ○ プール
○ その他()
○ 電気室・サーバー室内等(天井内を含む)の不活性ガス消火設備の避圧ダクトは全て保温を行う。

(9)放射線遮蔽範囲および留意事項
○ 放射線遮蔽範囲は次の通りとする。以下の部屋を通過するダクトや配管には放射線防護のために壁面より1m(室内側)ずつ鉛シート巻き(鉛等量2mm)とする。ただし、機器メーカーの仕様を確認し従うこと。
○ X線撮影室、X-TV室、CT(PETを含む)、血管造影室、OP室(X線撮影を伴う場合)
○ 図示による
○ 医療ガスアウトレット、ファンコイルスイッチボックスも同様に鉛巻きを行う。
○ リニアック室へのダクトには機器メーカーの仕様に従い、放射線の防護を行う。

(10)遮音壁貫通部の留意事項
○ 遮音壁を貫通する部分の空調換気、排煙ダクトの保温仕様は図示なき場合はロックウール板50mm、遮音シート1.0mmとし貫通部より相互0.5mまで(計1.0m)を対象とする。範囲は次の通りとする。
○ シネマシアター ○ スタジオ
○ 劇場客席および舞台 ○ ホテル客室
○ 図示による

第2節 塗装及び防錆工事

3.2.1 塗装

【追加】

(1)材料
● 屋内、屋外の施工時に行う塗装はホルムアルデヒド等放散量の極少ないものを選択し、JIS等の材料規格において放散量の規定がある場合はF☆☆☆☆とする。

(2)黒ガス管塗装
○ 「標仕」に従い塗装を行うこと。また、蒸気、高温水は耐熱塗装とする。

(3)「標仕」記載以外の塗装
● 下記の部分に塗装を行う。
● 屋内・屋外露出金属配線管 ○ ビット内排水管
○ ガス配管 ○ 吊りボルト
● 屋外露出配管 ○ 雑用水配管
● 屋内露出配管 (図示の場所に用いる)

(4)雑用水、中水配管の識別
○ 雑用水、中水配管がある場合、上水配管と区別するため塗装する。

第4章 関連工事

第1節 仮設工事

4.1.1 一般事項

【追加】

(1)足場さん橋類
● 建築工事請負者が定置したものは無償で使用できる。
○ 本工事で設置する。

第2節 土工事

4.2.1 一般事項

【追加】

(1)埋戻土、盛土
● 根切土の中の良質土(但し、コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類)
● 山砂の類

(2)建築発生土の残土処分
● 場外搬出(約10km) ○ 場内指定場所へ堆積
○ 自由処分

第3節 空気調和設備工事

設計条件

● 設計温湿度条件(下記以外の特殊条件は図中に記載する。)

	外気				屋内(調整目標値)			
	一般系統	24時間系統	一般系統	一般系統	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏期	34.1℃	58.0%	℃	%	26.0℃	50.0%	℃	%
冬期	-0.6℃	60.3%	-6.6℃	69.6%	22.0℃	40.0%	℃	%
中間期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%

第1章 機械

第1節 ボイラおよび温風暖房機

1.1.3 鋼板製煙道

○ 煙道は下記の通りとする。
○ 鋼板製煙道 ○ 3.2mm ○ 4.5mm
○ ステンレス製 ○ mm

【追加】

1.1.4 はい煙濃度計

○ 設置する(測定口は80φ以上とし、取付箇所は煙導直線部とする。)

【追加】

その他

【追加】

(1)薬剤
○ ボイラーの製圧剤は食添加総合缶内処理剤等を使用し、人体への影響が無いものとする。

(2)還水槽
○ ボイラー給水ポンプのキャビテーションを防ぐために、還水槽の温度が80℃以下になるように減温装置を設ける。

(3)ボイラー排水
○ ボイラー排水の系統には減温槽(槽)を設置し、給水装置で40℃未満に減温した後に一般の排水槽(槽)へ放流する。

第3節 冷凍機

1.3.3 冷媒放出管

○ 冷凍機まわりの安全弁集合放出管は、冷凍機当該部分から外気に直接面する箇所まで、すべて空調設備施工請負者工事とする。

【追加】

第4節 コージェネレーション装置

1.4.1 一般事項

○ コージェネレーション装置を設置する場合、隣室や上下階への騒音、振動計算書を監理者に提出すること。

○ 装置の発熱を効率よく除去するよう制気口の配置に配慮すること。

○ 系統連係の工事区分は図示による。

第6節 冷却塔

1.6.1 一般事項

○ 冷却塔は、給気用ガラリおよび給気用ベントキャップ等から10m以上の離隔を確保すること。

○ 冷却塔ブローによる排水放流先は下水道接続とし、下水道料金減免用に排水に非満水電磁流量計、補給水系統に計量器(検定付)を設置すること。

○ 11階以上の屋上の設置する冷却塔は施行令129条の2の7及び告示3411号に対応し、高層階仕様とすること。

第7節 空気調和機

1.7.3 カセット型ファンコイルユニット

【追加】

○ 天井カセット型フェース塗装は指定色焼付仕上とする。

1.7.6 マルチパッケージ型空気調和機

【追加】

● マルチパッケージ型空調機の屋外機が連結する場合のアクティブフィルターの渡り配線は本工事とする。
● マルチパッケージ型空調機の冷暖切替ユニットの電源工事は電気工事とするが、選定メーカーにより方式が変わるので、受注者間で調整を行うこと。
● マルチパッケージ型空調機の室外機用に集中ドレンパンやドレン管を設置すること。

第11節 送風機

1.11.1 ~1.11.4

【追加】

(1)天井内設置送排風機
● 1,500m3/hをこえる送排風機は、原則として、居室の天井内などに設置しないこと。

(2)厨房用排気ファン
● 厨房用排気ファンは、片持型とし油清掃用の点検口及びコック付水抜きを設置すること。
● 排気口に油受けを設置すること。

(3)チャンパーにおける点検扉
● 床置型ファンのサクシオンチャンパーには、羽根車点検のための点検扉を設けること。

(4)屋外型ファン
● ファンのケーシングには、点検口及びコック付水抜きを設置すること。

第12節 ポンプ

1.12.1 空調用ポンプ

○ 冷温水に不凍液を注入する場合は、ポンプをメカニカルシールとする。

【追加】

1.13.1 タンク

○ 膨張タンクの吐水口空間を確保すること。

【追加】

第14節 ダクト及びダクト付属品、第15節 制気口及びダンパー

1.14.1 一般事項

【追加】

(1)ダクト工法は下記とする。
● 低圧ダクト(通常運転時のダクト内圧が500Pa以下)
(● コーナーボルト工法 ○ アングルフランジ工法 ○ スパイラル)
● 高圧ダクト(通常運転時のダクト内圧が500Paを超えるもの)
(○ コーナーボルト工法 ● アングルフランジ工法 ○ スパイラル)
○ コーナーボルト工法
(● 共板フランジ工法 ○ スライドオンフランジ工法)
○ 上記によらず、下記の特種ダクト系統は、アングルフランジ工法とする。
○ 霊安室排気系統 ○ 細菌検査排気系統 ○ 図示による

1.14.5 吹出口及び吸込口ボックス

○ チャンパーボックスはGW成形チャンパーを用いないこと。

1.14.2 ~1.15.6 ~1.15.12 材料、ダンパー

	耐食仕様ダンパー A	耐食仕様ダンパー B	耐食仕様ダンパー C
推奨用途	外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気	外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気	浴室・厨房排気
ケーシング	溶融亜鉛メッキ鋼板 + 防錆塗装	ガルバリウム鋼板 + エポキシコーティング	ステンレス鋼板
軸受	テフロンコーティング	SUS	SUS
軸	溶融亜鉛メッキ鋼板 + 防錆塗装	SUS	SUS
連結方式	外部	外部	外部
羽	溶融亜鉛メッキ鋼板 + 防錆塗装	ガルバリウム鋼板 + エポキシコーティング	SUS
ヒューズ(FD)	形状記憶合金ヒューズ又は樹脂コーティング	形状記憶合金ヒューズ又は樹脂コーティング	SUS

	耐食仕様ダンパー D	耐食仕様ダンパー E	耐食仕様ダンパー F
推奨用途	酸・アルカリ系排気	有機溶剤系排気	
ケーシング	高耐食溶融メッキ鋼板 + エポキシコーティング	ステンレス鋼板	
軸受	テフロン製	SUS	
軸	高耐食溶融メッキ鋼板 + エポキシコーティング	SUS	
連結方式	外部	外部	
羽	高耐食溶融メッキ鋼板 + エポキシコーティング	SUS	
ヒューズ(FD)	形状記憶合金ヒューズ又は樹脂コーティング	SUS	

訂正

・

・

・

KUME SEKKEI 株式会社 久米設計

日付 2022.3.30

PA 丸目 明寛 増田 哲男

設計 藤木 真二郎 小嶋 貴博

監理 一級建築士 登録番号 269097号 伊藤 彰彦

設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 島間 正行

ひたちなか・東海広域事務組合消防本部・笹野消防署庁舎建設

機械設備工事

機械設備工事特記仕様書 5

A1判 A3判

N.S N.S

MP-05